

# 摂食機能療法学・高齢者歯科学演習

責任者名：植田 耕一郎

学期：前期

対象学年：6年

授業形式等：演習

## ◆担当教員

植田 耕一郎(摂食機能療法学 教授)

阿部 仁子(摂食機能療法学 准教授)

中山 潤利(摂食機能療法学 准教授)

佐藤 光保(摂食機能療法学 助教)

平場 久雄(摂食機能療法学 兼任講師)

大野 慎也(摂食機能療法学 専修医(病院))

## ◆一般目標 (GIO)

学生が要介護高齢者および有病高齢者に対する摂食機能療法の概念を理解するために、リハビリテーションの理念を理解し、摂食嚥下障害の診断法、アプローチ手技、および高齢者歯科医療に関する基本的な知識を身につける。

## ◆到達目標 (SBOs)

- ・ 要介護高齢者および有病高齢者に対する摂食機能療法におけるリハビリテーションの理念を説明できる。
- ・ 摂食嚥下障害の診断法とその効用・短所を列記できる。
- ・ 摂食機能療法のアプローチ手技を列記できる。
- ・ 高齢者歯科医療に関する基本的な知識を説明できる。
- ・ これからの高齢者歯科医療における課題と社会的ニーズを関連づけることができる。

## ◆評価方法

定期試験の代わりとして、毎回の講義後に課題を提示する。その課題を講義当日中に提出したものを採点し、成績評価とする。

講義当日中に課題の提出がない場合には欠席とし、減点する。

## ◆オフィス・アワー

担当教員	対応時間・場所など	メールアドレス・連絡先	備考
植田 耕一郎	月曜日 12:00～13:00 摂食機能療法学講座教授室（本館6階）	ueda.kouichirou@nihon-u.ac.jp	
阿部 仁子	水曜日 12:00～13:00 摂食機能療法学講座医局（本館6階）	abe.kimiko@nihon-u.ac.jp	
中山 潤利	木曜日 12:00～13:00	nakayama.enri@nihon-	

	摂食機能療法学講座医局（本館 6 階）	u.ac.jp	
佐藤 光保	木曜日 12:00～13:00 摂食機能療法学講座医局（本館 6 階）	sato.mitsuyasu@nihon-u.ac.jp	

#### ◆授業の方法

- ・第 1～15 回全ての講義はいずれも実習扱いとする。
- ・6/4～8/6 までの相互実習、模型実習、課題検討（実習）については 1～3 限の時間内にオンラインでの講義とするが、大学での講義・実習が再開される場合には、実習室で 1 グループ 6 名程度にわかれて実習を実施する。

#### 【実務経験】

植田耕一郎：脳血管障害患者を主とする有病高齢者に対する歯科における摂食機能療法の第一人者として日本大学歯学部在籍し、一般歯科診療、摂食嚥下リハビリテーションの臨床・教育・研究に従事しています。これまでの経験に基づき、より一層の理解を深めることが出来る講義・演習を行いたいと思います（摂食機能療法科）。

阿部仁子：現在在籍している日本大学歯学部摂食機能療法学講座にて、一般歯科診療、摂食嚥下リハビリテーションの臨床・教育・研究に従事しています。これまでの経験に基づき、学生がより一層の理解を深めることが出来る講義・演習を行いたいと思います。（摂食機能療法科）

中山潤利：現在在籍している日本大学歯学部摂食機能療法学講座にて、一般歯科診療、摂食嚥下リハビリテーションの臨床・教育・研究に従事しています。これまでの経験に基づき、学生がより一層の理解を深めることが出来る講義・演習を行いたいと思います。（摂食機能療法科）

佐藤光保：現在在籍している日本大学歯学部摂食機能療法学講座にて、一般歯科診療、摂食嚥下リハビリテーションの臨床・教育・研究に従事しています。これまでの経験に基づき、学生がより一層の理解を深めることが出来る講義・演習を行いたいと思います。（摂食機能療法科）

#### ◆アクティブ・ラーニング

- ・第 1～15 回全ての講義はいずれも実習扱いとする。
- ・6/4～8/6 までの相互実習、模型実習、課題検討（実習）については 1～3 限の時間内にオンラインでの講義とするが、大学での講義・実習が再開される場合には、実習室で 1 グループ 6 名程度にわかれて実習を実施する。

#### ◆教材（教科書、参考図書、プリント等）

種別	図書名	著者名	出版社名	発行年
プリント配布				
教科書 1	脳卒中患者の口腔ケア第 2 版	植田耕一郎	医歯薬出版株式会社	2015
教科書 2	よくわかる高齢者歯科学	佐藤裕二, 植田耕一郎, 菊谷武 編集	永末書店	2018

参考書 1	摂食嚥下リハビリテーション第 3 版	才藤栄一, 植田耕一郎 編集	医歯薬出版株式会社	2016
参考書 2	老年歯科医学	森戸光彦, 山根源之, 櫻井薫, 羽村章, 下山和弘, 柿木保明	医歯薬出版株式会社	2015

#### ◆DP・CP

[DP1]コンピテンス：豊かな知識・教養に基づく高い倫理観

コンピテンシー：医の尊厳を理解し、法と倫理に基づいた医療を実践するために必要な豊かな教養と歯科医学の知識を修得できる。

[DP3]コンピテンス：倫理的・批判的思考力

コンピテンシー：多岐にわたる知識や情報を基に、倫理的な思考や批判的な思考ができる。

[DP4]コンピテンス：問題発見・解決力

コンピテンシー：自ら問題を発見し、その解決に必要な基本的歯科医学・医療の知識とスキルを修得できる。

[DP-6]コンピテンス：コミュニケーション力

コンピテンシー：医療をはじめとする様々な場面において、他者との円滑な意思の疎通を行い、互いに価値観を共有し、適切なコミュニケーションを実践して自らの考えを発信することができる。

[DP-7]コンピテンス：リーダーシップ・協働力

コンピテンシー：患者を中心としたチーム医療において、責任ある医療を実践するためのリーダーシップと協働力を養うことができる。

[CP1]歯科医学と医療倫理の基礎的知識を修得し、社会人としての品格と医療人になるため自覚を養成する。

[CP6]他者の意見を尊重し、明確な意思疎通のもと、円滑な人間関係を構築するためのコミュニケーション能力を養成する。

[CP7]歯科医師の責務を自覚して、責任あるリーダーシップを発揮し、患者を中心としたチーム医療における適切なコミュニケーション能力を養成する。

[CP8] 各学年における学修で得た歯科医学の知識、技術および省察力をもとに、歯科医師として生涯にわたり学習する姿勢を育成する。

#### ◆準備学習(予習・復習)

- ・必ず事前に教科書を読んで、授業内容の目的を理解しておくこと。
- ・授業中のノートテイキングによるノートを利用した復習を行うこと。

#### ◆準備学習時間

授業時間の半分相当の時間を充てて予習あるいは復習を行うこと。

#### ◆全学年を通しての関連教科

生理学（2年前期）

Medical and Dental English（3年前期）

顎機能治療学（4年後期）

臨床推論の構築（5年後期）

摂食機能療法学・高齢者歯科学演習（6年前期）

臨床実習アドバンスト（6年前期）

◆予定表

回	クラス	月日	時間	学習項目	学修到達目標	担当	コアカリキュラム
1 ～ 2		5.14	6 ～ 7	1. 摂食嚥下機能訓練（治療的・代償的アプローチ） 1)リハビリテーションとしての治療計画 2)間接訓練（基礎訓練） 3)直接訓練 （教1）pp.116-133 摂食嚥下リハビリテーション各論講義（実習前講義①） 1) 要介護高齢者に対する口腔ケア	・経口摂取が不可能な場合の代償的栄養および水分摂取法について学ぶ。 ・嚥下機能回復のための食物形態、性状を知る。 ・誤嚥予防のため、咀嚼・嚥下が容易になる摂食機能に適した摂食姿勢について学ぶ。 ・PLP, PAP の適応、効用について学ぶ。 ・リハビリテーションの理念に即した摂食機能療法（口腔ケア）を理解する。	阿部 仁子	E-5-1) 高齢者の歯科治療
3 ～ 5		5.21	1 ～ 3	2. リハビリテーション医学・高齢者歯科学概論講義 1)リハ医学の理念 2)高齢者歯科医療の現場 3)超高齢社会における歯科医療のあり方 （教1）pp.2-8 （教2）pp.2-8, 45-50	・リハビリテーション医学における障害の構造について理解する。 ・リハビリテーション医学の理念を理解する。 ・リハビリテーションに関わる職種、職能、多職種協働を知る。 ・超高齢社会における歯科医師の役割について理解する。	植田 耕一郎	B-2-2) 保健・医療・福祉・介護の制度 E-5-1) 高齢者の歯科治療
6		5.28	6	3. 摂食嚥下の生理 1)摂食に関わる大脳皮質 2)咀嚼、嚥下のメカニズム 3)誤嚥の発症機転	・先行期（認知期）における摂食行為の多様性について学ぶ。 ・咀嚼、嚥下が起る生理学的なメカニズムを知る。 ・咀嚼、嚥下器官の神経学的正常と異常、加齢について学ぶ。	平場 久雄	E-2-1) 頭頸部の基本構造と機能

				(教1) pp.9-36			
7		5.28	7	4. 摂食嚥下リハビリテーション各論講義(実習前講義②) 1) スクリーニング検査・間接訓練 (教1) pp.84-137 (教2) pp.180-208	・リハビリテーションの理念に則した摂食機能療法(スクリーニング検査・間接訓練)を理解する。	佐藤 光保	E-5-1) 高齢者の歯科治療
8 ～ 10		6.4	1 ～ 3	5. 口腔ケア実習 1)口腔を通じての生活ケア 2)車椅子操作法について (教1) pp.12-19	・摂食嚥下障害者に対する口腔ケアの意義を理解する。 ・口腔ケアの手技を修得する。 ・車椅子の構造を理解する。 ・車椅子の操作法および介助法について習得する。	植田 耕一郎 阿部 仁子	E-5-1) 高齢者の歯科治療
11 ～ 13		6.11	1 ～ 3	6. 摂食嚥下障害の診断実習 1)スクリーニング検査法 2)ビデオ嚥下内視鏡検査(VE) 3)ビデオレントゲン造影検査(VF) (教1) pp.104,110	・スクリーニング検査法を修得する。 ・VEの効用, 短所について理解する。 ・VFの効用, 短所について理解する。	中山 洵利	E-5-1) 高齢者の歯科治療
14 ～ 16		6.18	1 ～ 3	7. 摂食機能療法実習 1)間接訓練の手技 2)直接訓練の手技 (教1) pp.84-108	・摂食機能障害に対する治療的アプローチの意義について理解する。 ・食物を使用しない基礎訓練法(間接訓練)について理解する。 ・食物を使用する訓練法(直接訓練)について理解する。	佐藤 光保	E-5-1) 高齢者の歯科治療
17 ～ 19		6.25	1 ～ 3	8. 高齢者顎歯模型実習1 1)歯科疾患の診断 2)治療計画 (教1) pp.1-8, 61-140	・要介護高齢者の典型的な口腔内所見を理解する。 ・高齢者の歯科治療方針を習得する。 ・高齢者が罹患する頻度の高い疾患の病態を理解する。	植田 耕一郎 中山 洵利	E-5-1) 高齢者の歯科治療

				(教2) pp.128-158			
20 ～ 21	6.26	6 ～ 7	9. 成人期の摂食 嚥下障害 1) 摂食嚥下機能 2) 脳血管障害 3) 神経・筋疾患 (教1) pp.38-71 (教2) pp.180- 190 10. 摂食嚥下障害 の診断 1) 呼吸, 栄養アセ スメント 2) 装置診断法 (教1) pp.72- 115	・臨床的摂食嚥下機能を理解する。 ・脳血管障害の病態を知る。 ・パーキンソン病, 認知症等の病態 を知る。 ・異常疾患に特有な摂食機能障害の 臨床的所見を知る。 ・呼吸および栄養状態のアセスメン ト方法について学ぶ。 ・摂食嚥下障害の装置診断の特徴を 理解する。	中山 洵利	E-5-1) 高齢 者の歯科治療	
22 ～ 24	7.30	1 ～ 3	10. 高齢者顎歯 模型実習2 1) 歯科疾患の診断 2) 治療計画 (教1) pp.1-8, 61- 140 (教2) pp.128-158	・要介護高齢者の典型的な口腔内所 見を理解する。 ・高齢者の歯科治療方針を習得す る。 ・高齢者が罹患する頻度の高い疾患 の病態を理解する。	植田 耕一 郎 中山 洵利	E-5-1) 高齢 者の歯科治療	
25 ～ 27	8.6	1 ～ 3	11. 課題検討 1) 多数歯齲蝕症例 2) 胃瘻患者症例 3) 認知症の病態 4) 脳卒中の病態 5) 介護保険におけ る歯科医療従事者 の役割 6) 口腔ケアの考え 方と手法	・要介護高齢者の典型的な口腔内所 見を理解する。 ・高齢者が罹患する頻度の高い疾患 の病態を理解する。 ・高齢者に対する福祉, 医療制度を 理解する。 ・高齢者への歯科医療を遂行する上 での応接を修得する。	植田 耕一 郎 阿部 仁子 中山 洵利 佐藤 光保	E-5-1) 高齢 者の歯科治療	
28 ～ 30	8.13	1 ～ 3	12. 発達期の摂 食機能障害 1) 発達期摂食機能 障害に対する基本 姿勢(発達療法) 2) 口腔機能発達不	・発達期の摂食嚥下機能の獲得につ いて学ぶ。 ・発達期の摂食嚥下リハビリテーシ ョンについて学ぶ。 ・口腔機能発達不全症について理解 する。	阿部 仁子	E-5-2)-⑥発達 期の摂食嚥下 障害	

			全症 (教1) pp.158-160			
--	--	--	-----------------------	--	--	--





## 担当グループ一覧表

グループ名	教員コード	教員名
摂食機能療法科	2960	大野 慎也
	1872	阿部 仁子
	2157	中山 潤利
	2562	佐藤 光保
	3000552	平場 久雄

